

(令和2年9月試験研究業務月報)

タスクチーム活動：飼料イネとしての「やまだわら」の普及

研 究

「やまだわら」の現地ほ場見学会を開催

当センターでは、今年度から中丹西農業改良普及センター、畜産課と協力し、飼料用米の主力となっている「あきだわら」に代わる品種として選定した「やまだわら」の試験栽培を福知山市の農家と実施しています。

9月8日に「やまだわら」の現地ほ場見学会を開催したところ、15名の参加者からは品種特性や倒伏に強そうな草姿から次作には試験的に栽培したいという農家がある等、「やまだわら」に対する評価は良好でした。

今後も引続き収量調査等で栽培特性を把握し、普及を進めていきます。



現地ほ場見学会の様子
(右手に見えるのがやまだわらのほ場)

畜産センター

農場HACCP推進農場への支援

令和2年9月16日、農場HACCP*認証取得に取り組む福知山市の大型採卵鶏農場において研修会が開催され、「鶏舎におけるワクモ対策」について当所職員が講師を務めました。研修会ではワクモの生態や効果的な防除方法について解説し、参加した農場従業員など6名からは畜産物に影響を及ぼさない殺ダニ剤の散布頻度や、同時散布可能な殺ダニ剤の種類についてなど、農場の現状に即した質問が寄せられるとともに、生産現場に活用したいという積極的な意見が聞かれました。

今後も、食の安心・安全のための取組みとして現地指導と情報提供に努めていきます。



当所職員による説明



説明スライドの一部

※農場HACCP認証制度：農場の飼養衛生管理にHACCP（危害要因の分析・評価を行い、農場の状況に応じた管理ポイントを定める手法）の考え方を取入れ、生産される畜産物の安全性を向上させるシステム。日本における農場HACCP認証制度では、達成度により「推進農場」あるいは「認証農場」が取得できる。

初妊牛譲渡会を開催しました

当センターでは、高能力乳牛の府内農家への普及に取り組んでおり、9月10日に未經産の乳牛（初妊牛）1頭の譲渡会を行いました。

譲渡牛はアメリカから輸入した高能力牛の血を受け継いだ乳牛で、雌子牛を分娩させる精液を用い人工授精により受胎させています。

譲渡会に訪れた酪農家からは「発育がよい」「腹がよくできている」「生まれてくる子牛も楽しみ」と大変高い評価をいただき、南丹管内の酪農家へ譲渡されることとなりました。

北海道等の主産地において初妊牛価格が高止まりしている中、過去の譲渡牛の活躍もあり、本譲渡会は酪農家に好評の取組みとなっています。

今年度中に2頭の初妊牛の譲渡を予定しており、府内酪農家の経営改善につながる良好な乳牛の生産に努めていきます。



譲渡牛を見定める酪農家

畜産センター

獣医系大学生が就業体験を行いました

京都府では、将来、獣医師を目指す大学生が専攻や職業選択に活かすための就業体験を受け入れています。

今回、府内各家畜保健衛生所が受け入れた産業動物分野への就職を希望する2～5年生の学生が当センターでの就業体験に9月2日に2名、10日に5名訪れました。

当センターの概要や試験研究についての説明を行った後、施設の視察、職員とのディスカッションを行い、都道府県の畜産試験場の業務について理解を深めてもらいました。

今後も学生等のキャリア支援の一環として、積極的に取り組んでいくこととしています。



職員とのディスカッションを実施



牛舎施設を視察

畜産センター

碓高原牧場での畜産人材育成研修（肉用牛）の実習が終了

当場における6月1日から開始した肉用牛主体の畜産人材育成研修の第1期生研修が、9月2日に終了しました。

研修では、肉用子牛や成牛の飼養管理から繁殖管理などを学び、牛への接し方や子牛セリ市までの準備や手入れなど一連の作業について実習しました。

研修生からは、「まだまだ学び足りないことがあるが、一つ一つ丁寧に教えてもらい大変有意義な研修だった。今後の就農に繋げたい。」との感想をいただきました。

当場としても、家畜人工受精師養成講習会による更なる技術向上や就農へ向けた経営方針、規模などの具体的化に向けて、関係機関や団体と連携して引き続き支援していきます。



研修生と研修担当職員
(研修生：前列右から2人目)



子牛のほ乳実習